

# 平塚市男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

平成25年(2013年)2月

平塚市

# 調査の概要

## 1 調査目的

男女共同参画社会の実現のために、施策の基本となる「ひらつか男女共同参画プラン2007」を平成19年度からスタートしている。平塚市民が日常生活の中で感じている意識と現状を把握し、男女共同参画社会の推進状況をはかり、プラン推進の基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 調査方法・回収状況

- |           |                                     |
|-----------|-------------------------------------|
| (1) 調査対象  | 満16歳以上の平塚市民                         |
| (2) 標本数   | 3,000 件                             |
| (3) 調査区域  | 平塚市全域                               |
| (4) 抽出方法  | 住民基本台帳から等間隔に無作為抽出                   |
| (5) 調査方法  | 郵送方式(料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送)           |
| (6) 調査期日  | 平成24年11月19日(回答期限 12月3日)             |
| (7) 有効回収数 | 1145 件 (うち男性 477 件、女性 659 件、不詳 9 件) |
| (8) 有効回収率 | 38.2%                               |

## 3 報告書を読むにあたって

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数(N)として、少数第2位を四捨五入したため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) (M. A.)とあるものは、1つの問に対して複数の回答を求めたものである。
- (3) 複数回答形式(M. A.)の場合、各選択肢の件数を回答者数で除したため、回答比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 前回調査は平成22年1月実施。

# 調査の結果

## 男女平等意識と実態

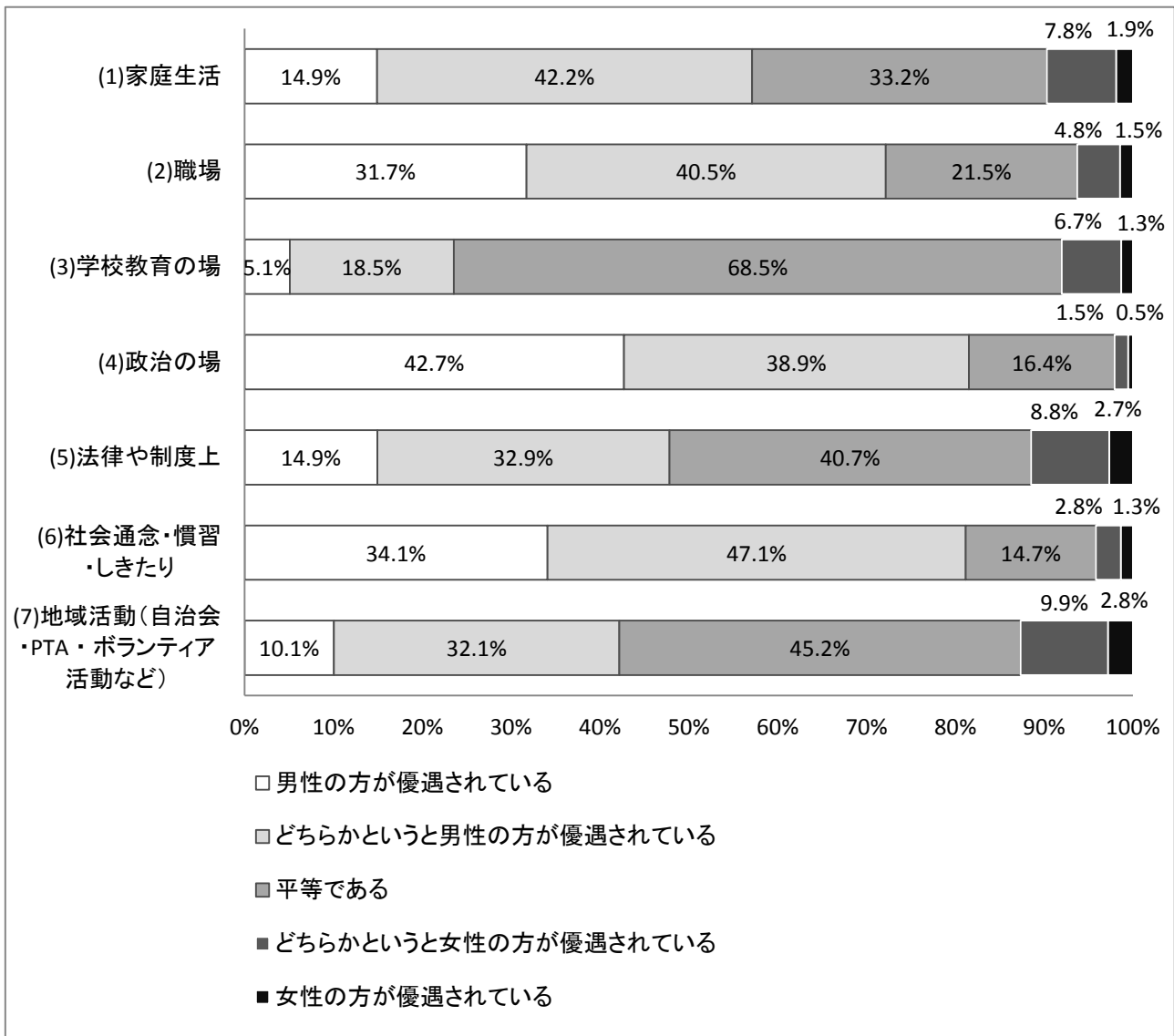
問1 あなたは次の(1)～(7)までの各分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(7)の各項目について、1～5のうちあてはまるものをそれぞれ**1つ**選び、番号に○をつけてください。

「平等である」という意見は、「学校教育の場」が68.5%で最も高く、次いで「地域活動」が45.2%、「法律や制度上」が40.7%となった。

一方、「男性の方が優遇されている」「どちらかというと男性の方が優遇されている」という意見は、「政治の場」が81.6%で最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたり」が81.2%、「職場」が72.2%となった。

今回調査では、「平等である」という意見が前回調査と比べて高くなった項目は、「家庭生活」と「社会通念・慣習・しきたり」の2項目であった。

(1)N=1127, (2)1100, (3)1062, (4)1122, (5)1125, (6)1126, (7)1114

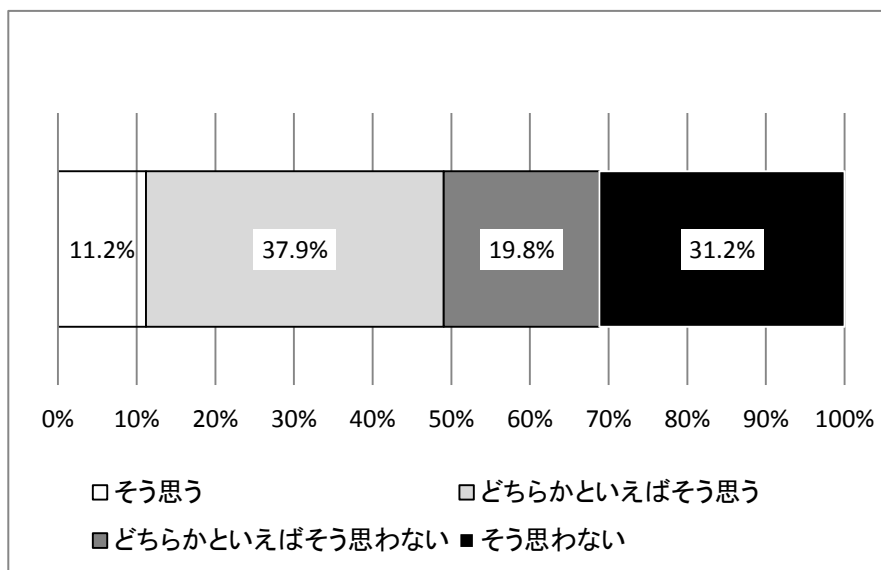


問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたはど  
うお考えですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

「夫は仕事、妻は家庭」という男女の役割分担意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という「肯定派」の割合が49.1%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という「否定派」が51%となり、否定派が半数を上回った。

前回調査と比べると、肯定派と否定派の割合は同じだが、今回調査の方が「そう思う」という意見は1.5ポイント高く、「そう思わない」という意見は0.1ポイント低くなった。

N= 1136



### 《男女別》

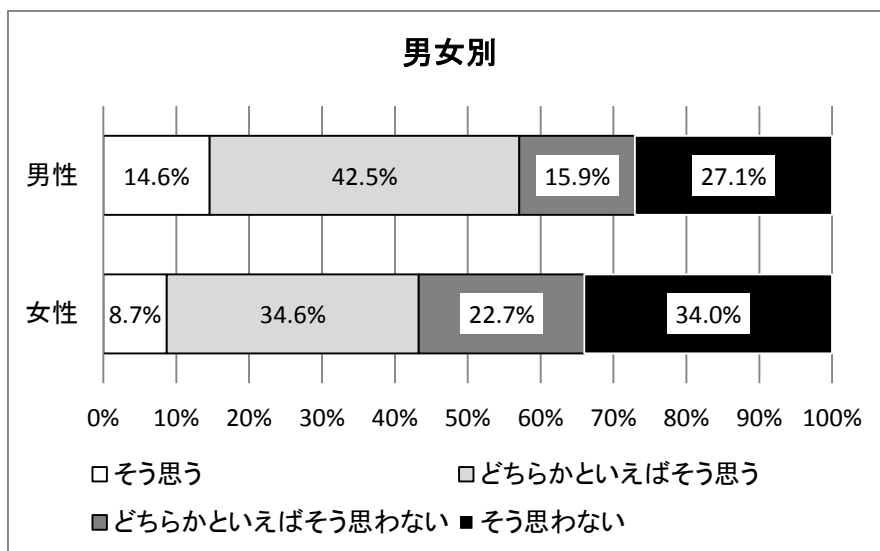
男女別にみると、男性の「肯定派」の占める割合が57.1%と高く、女性の「肯定派」は43.3%と低くなり、男女に差が見られた。

今回調査では、前回調査と比べると、男性の「肯定派」は4ポイント高くなったが、女性の「肯定派」は2.6ポイント低くなった。

N=男性 473

女性 656

不詳 7

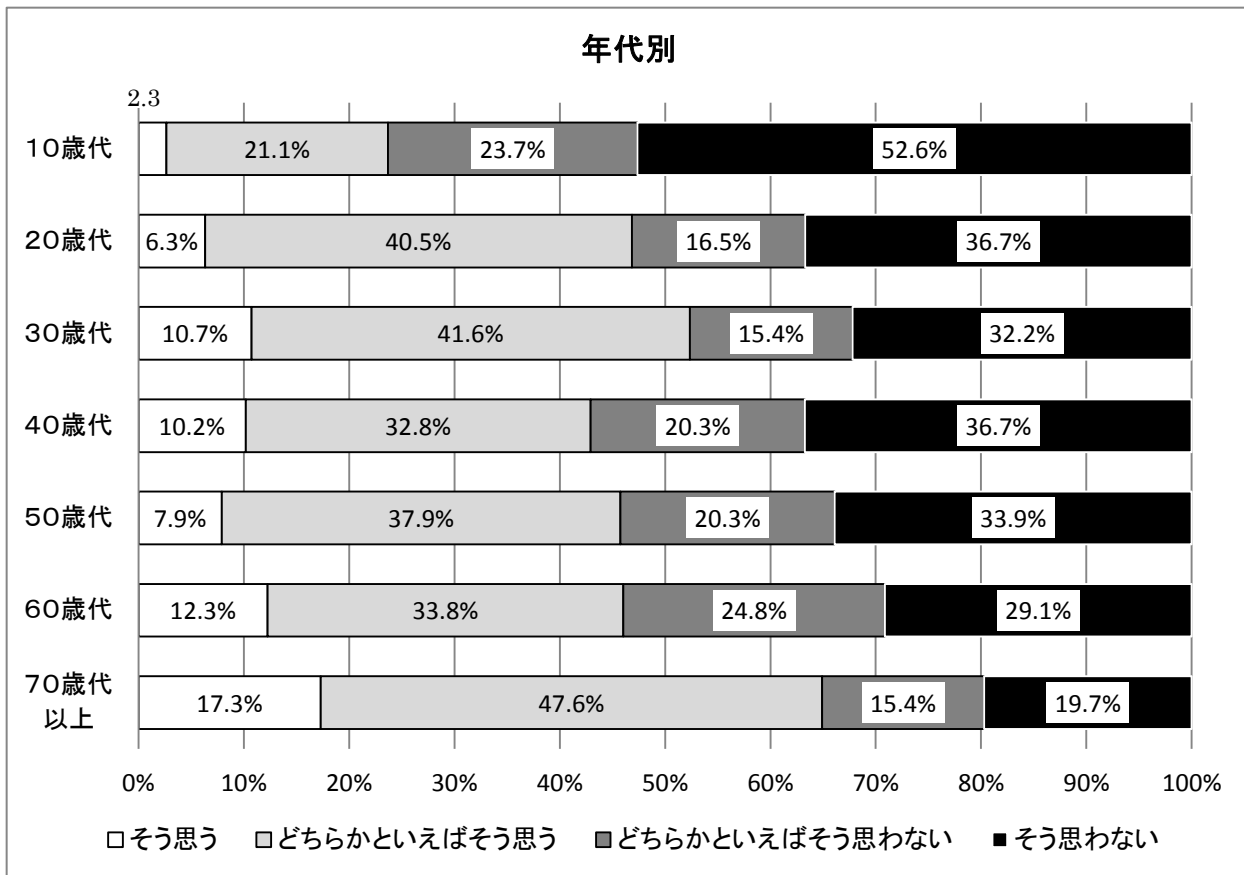


## 《年代別》

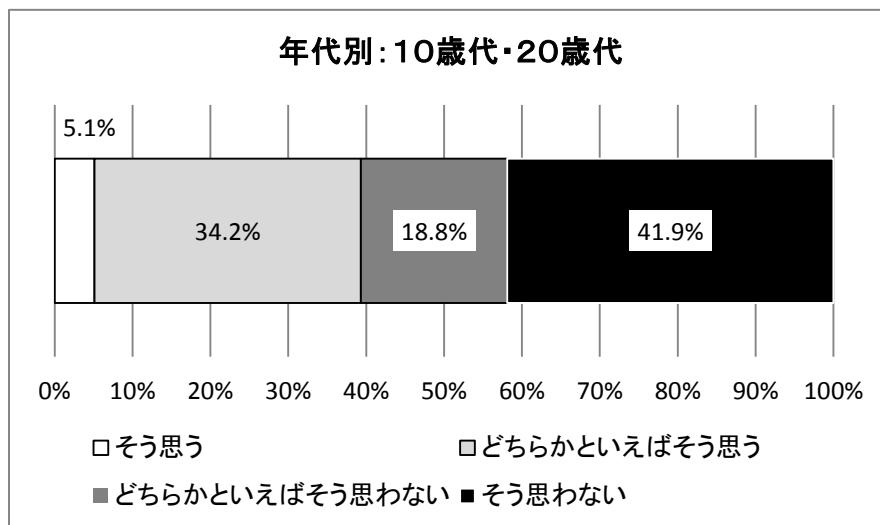
年代別にみると、30歳代と70歳代以上の「肯定派」を占める割合は半数以上となった。一方、10歳代の「肯定派」を占める割合は23.4%であり、他の年代と比べてかなり低く、年代によって意識に差があることが分かる。

今回調査では、10歳代、20歳代を合わせた「否定派」の割合は60.7%となり、前回調査と比べると2.2ポイント低くなった。

N=10歳代 38      20歳代 79      30歳代 149      40歳代 177  
50歳代 177      60歳代 302      70歳代 208      不詳 6



N=10歳代・20歳代 117

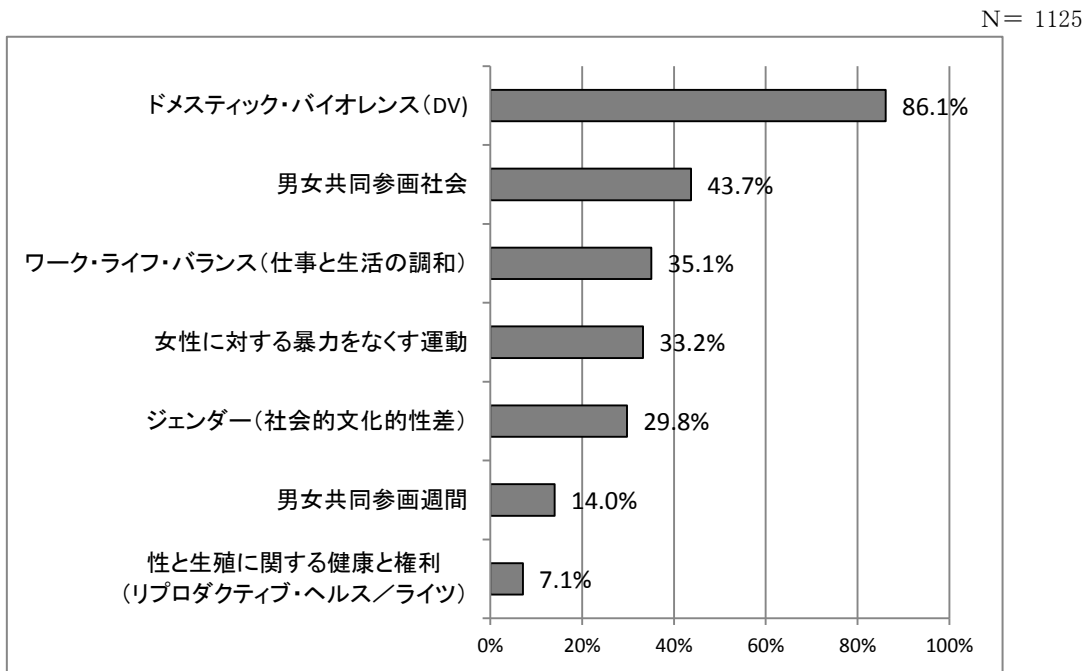


## 男女共同参画に関する用語

問3 男女共同参画に関する次の1～7の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして知っている言葉について、**すべて**を選び、番号に○をつけてください。  
(M. A. )

男女共同参画に関する用語の周知度については、ドメスティック・バイオレンス(DV)が86.1%と最も高くなった。次いで、「男女共同参画社会」が43.7%、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が35.1%と続いている。

今回調査では、前回調査と比べると、「ドメスティック・バイオレンス」は2.8ポイント、「男女共同参画社会」は6.6ポイント低くなった。



## ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

問4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についてお聞きします。

(4-1)では、**あなた御自身の現状**について、あてはまるものを**1つ**選び、番号に○をつけてください。(現在、仕事をしていない方もお答えください)

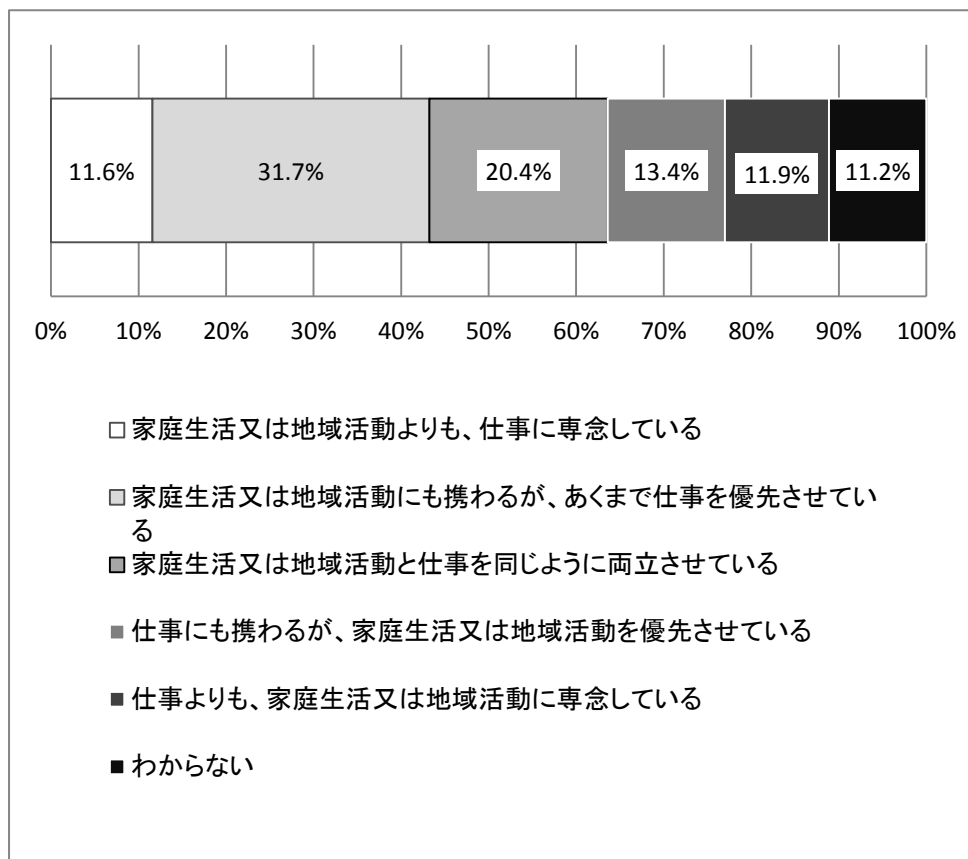
(4-2)女性、(4-3)男性、それぞれの場合について、**望ましいと思うもの**をそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

(4-1) **あなた御自身の現状**は、どれに当てはまりますか。**1つ**選び、番号に○をつけてください。

「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する」と、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」を合わせた「仕事優先派」は43.3%となり、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」とする「両立派」は20.4%となった。

前回調査と比べると、「両立派」は、4.9ポイント高くなった。

N= 1093

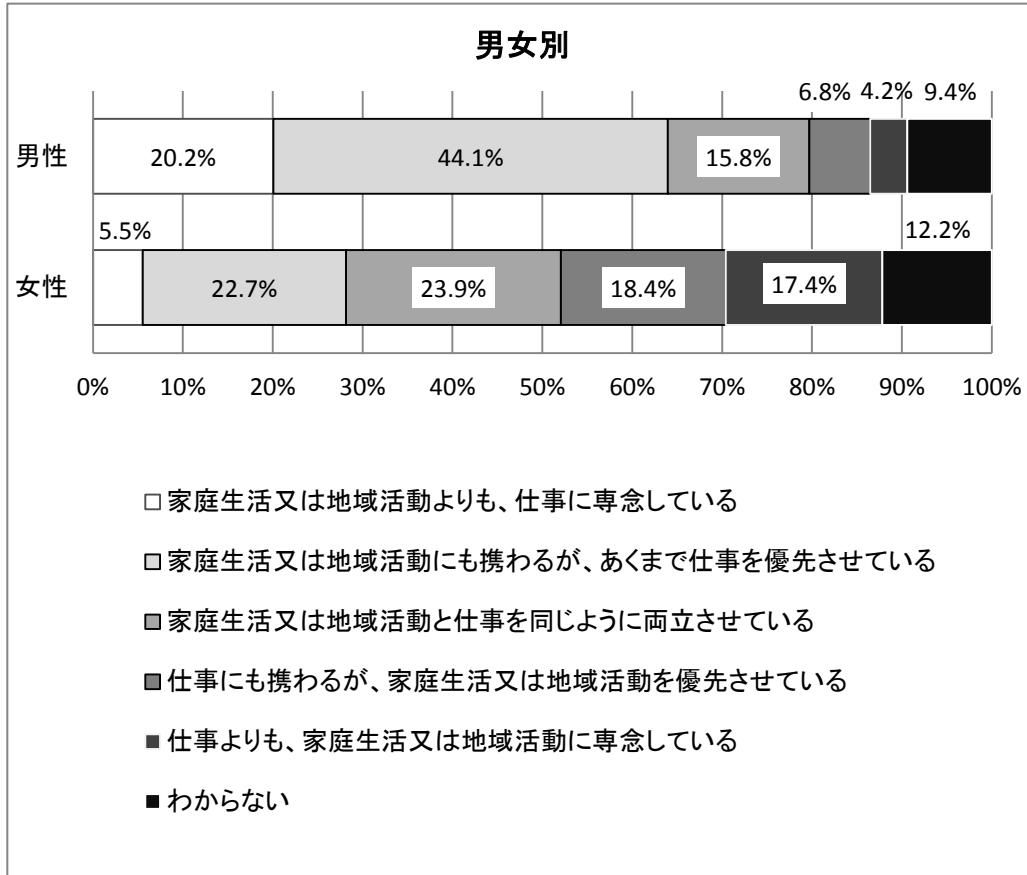


## 《男女別》

男女別にみると、男性の「仕事優先派」は64.3%と半数以上となった。一方、女性の「仕事優先派」は28.2%となり、男女に大きな差が見られた。

今回調査では、前回調査と比べると、男性の「仕事優先派」は9.1ポイント高くなった。

N=男性 456      女性 631      不詳 5

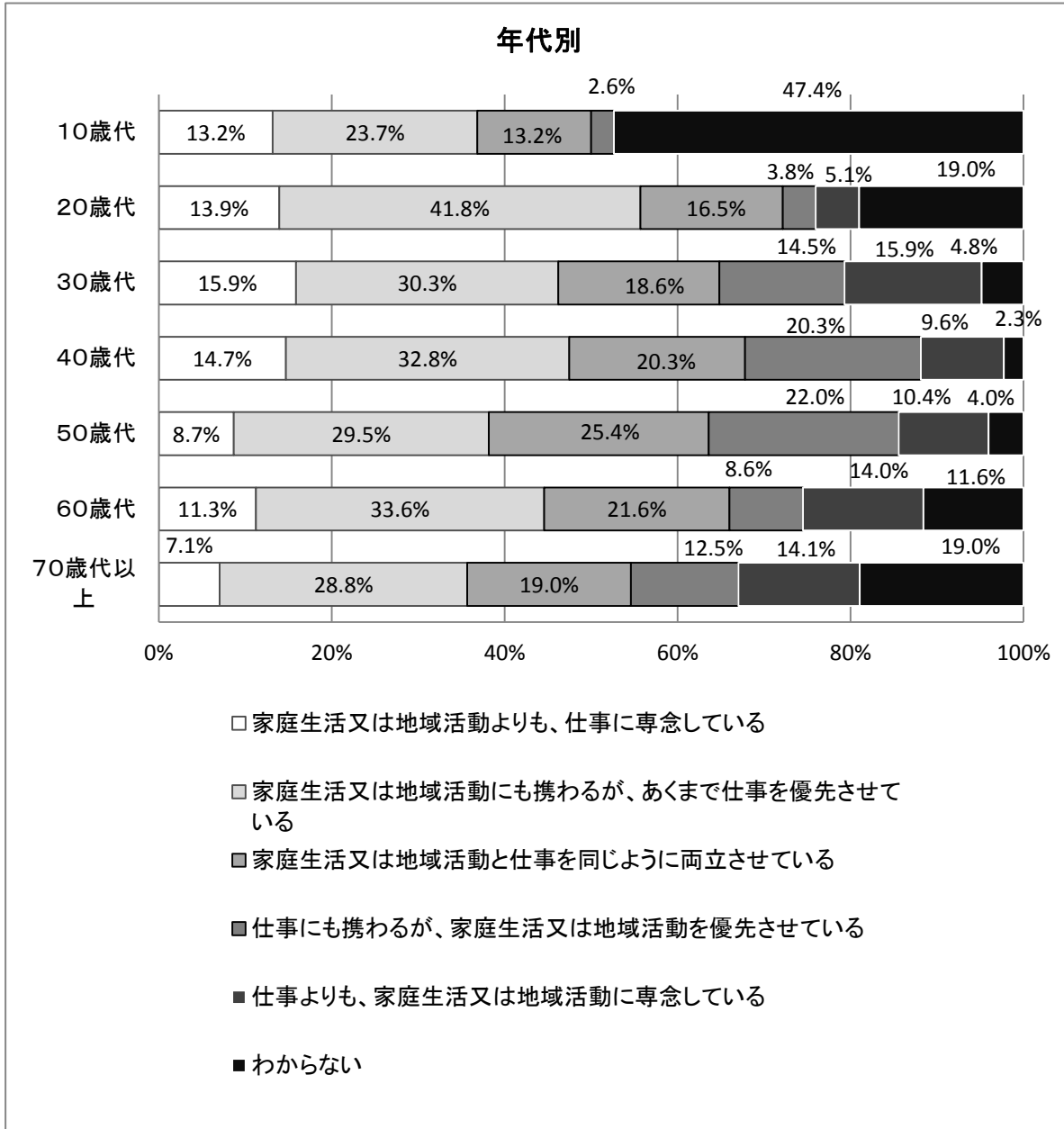




## 《年代別》

年代別にみると、20歳代の「仕事優先派」が最も高く、55.7%となった。前回調査と比べると、4.7ポイント高くなった。

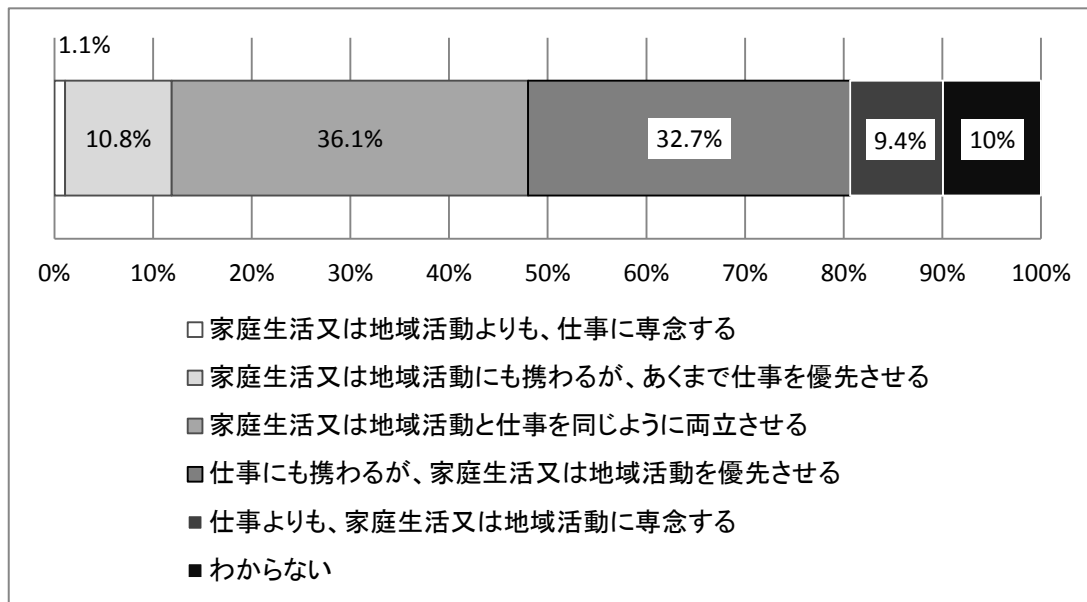
N=10歳代 38      20歳代 79      30歳代 145      40歳代 177  
 50歳代 173      60歳代 292      70歳代 184      不詳 5



**(4-2) 次に、女性の場合は、どれが望ましいと思いますか。1つ選び、番号に○をつけてください。**

女性の場合では、「両立派」が最も高く、36.1%となり、前回調査と比べると、1.6ポイント高くなった。また、「仕事優先派」が11.9%、「家庭生活又は地域活動優先派」が42.1%となった。

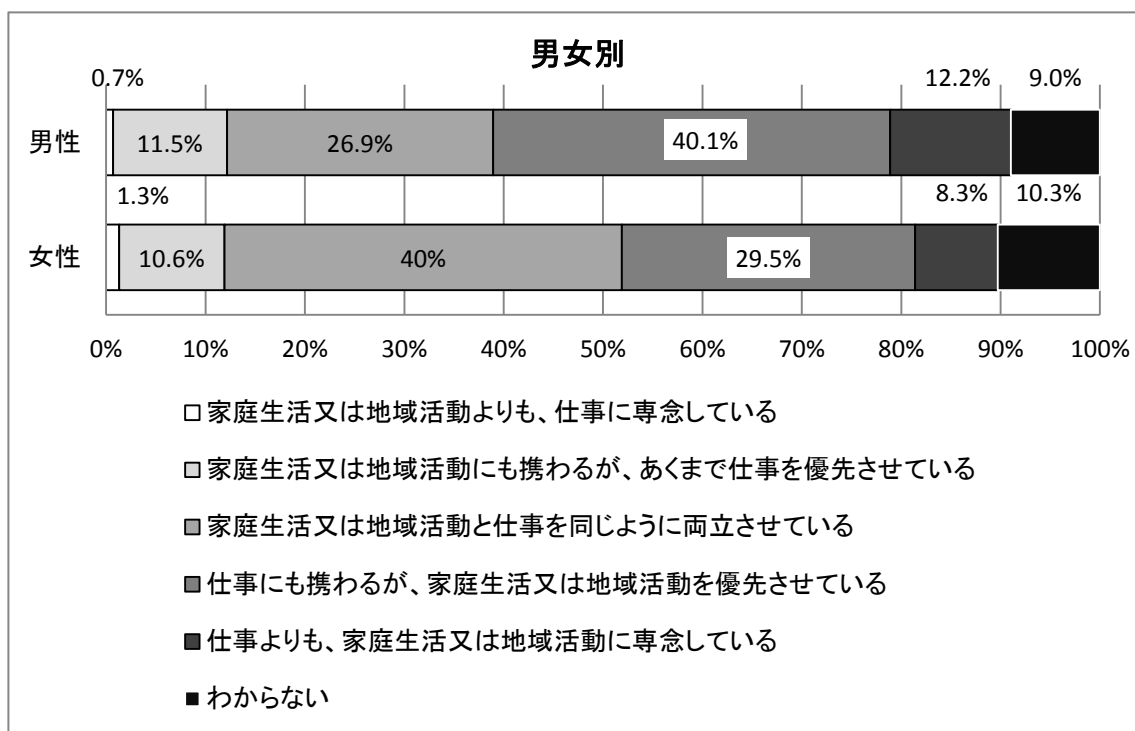
N = 925



**《男女別》**

男女別にみると、女性では、「両立派」が最も高く40%となった。一方、男性では、「家庭生活又は地域活動優先派」が52.3%であり、過半数を越えている。

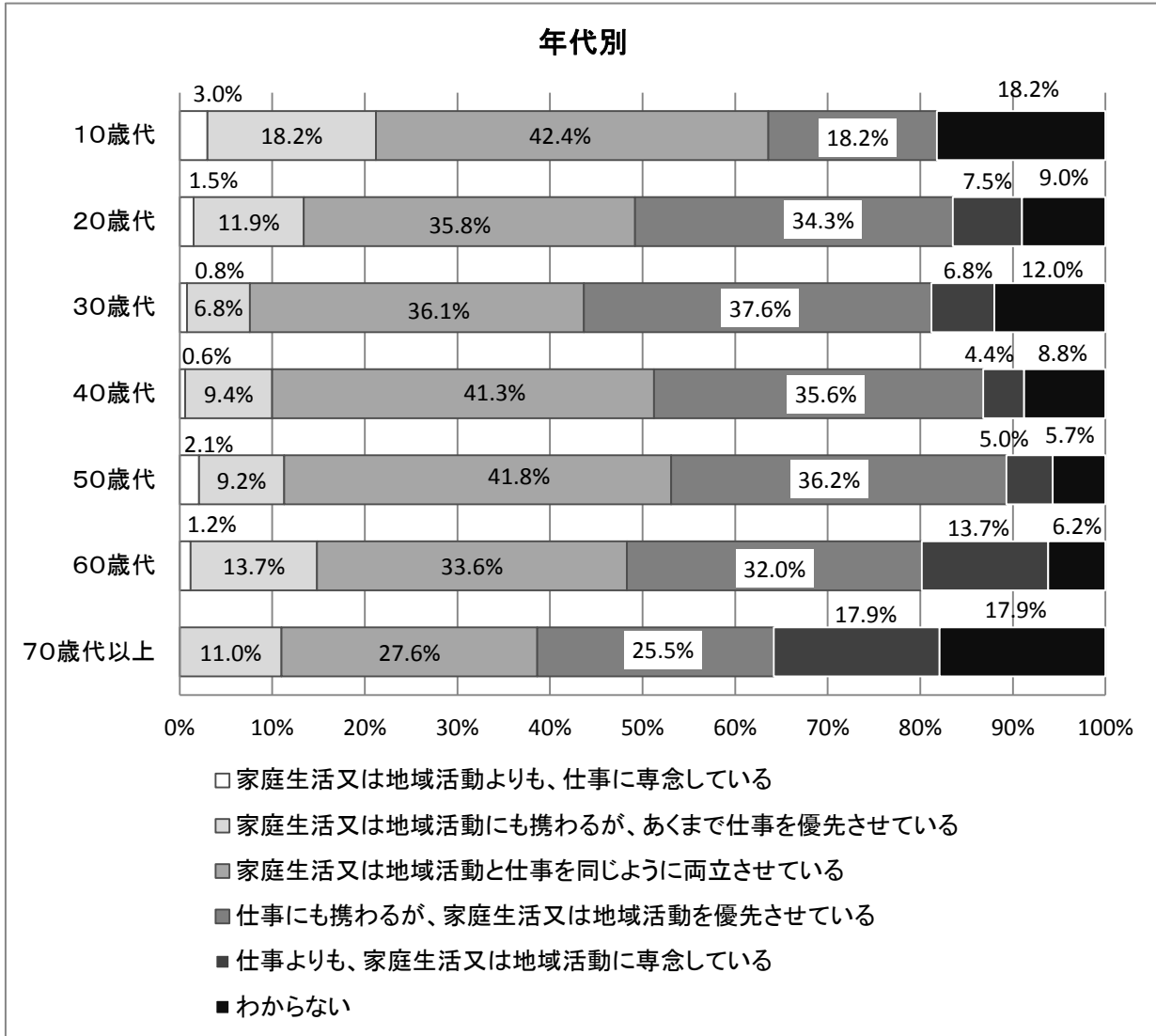
N = 男性 280      女性 640      不詳 5



## 《年代別》

年代別にみると、10歳代の「両立派」が42.4%と最も高くなった。また、40歳代、50歳代の「両立派」も4割を越えている。

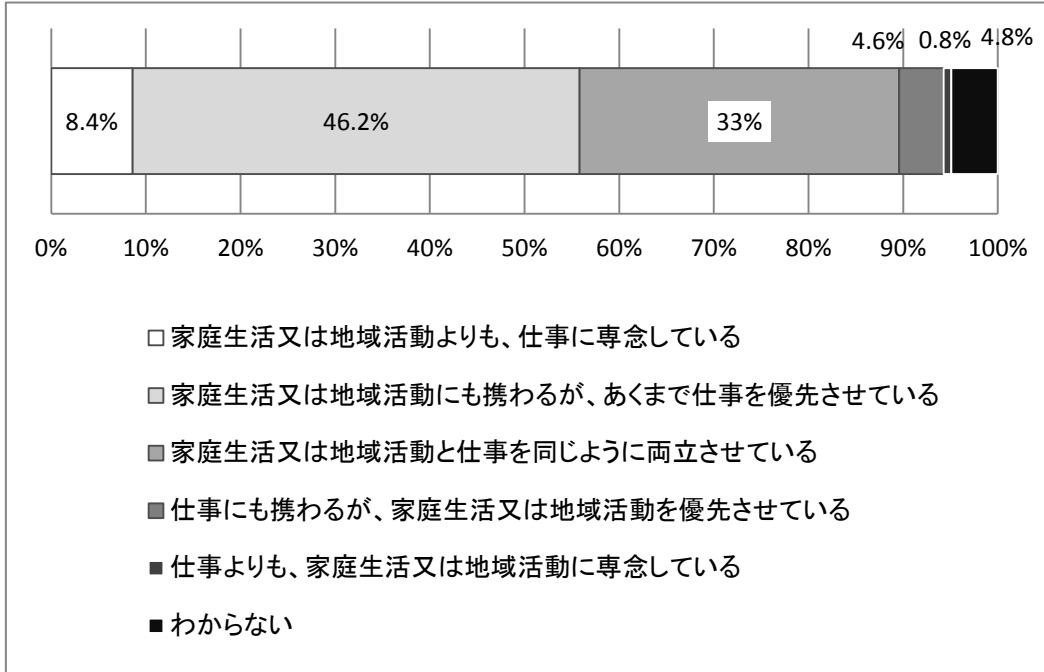
N=10歳代 33      20歳代 67      30歳代 133      40歳代 160  
 50歳代 141      60歳代 242      70歳代 145      不詳 4



**(4-3) それでは、男性の場合はどれが望ましいと思いますか。1つ選び、番号に○をつけてください。**

男性の場合では、「仕事優先派」が最も高く、54.6%となった。問4-2の女性の場合と比べると42.7ポイント高く、大きな差が見られる。  
また、「両立派」は33%となり、前回調査と比べると、7.3ポイント高くなった。

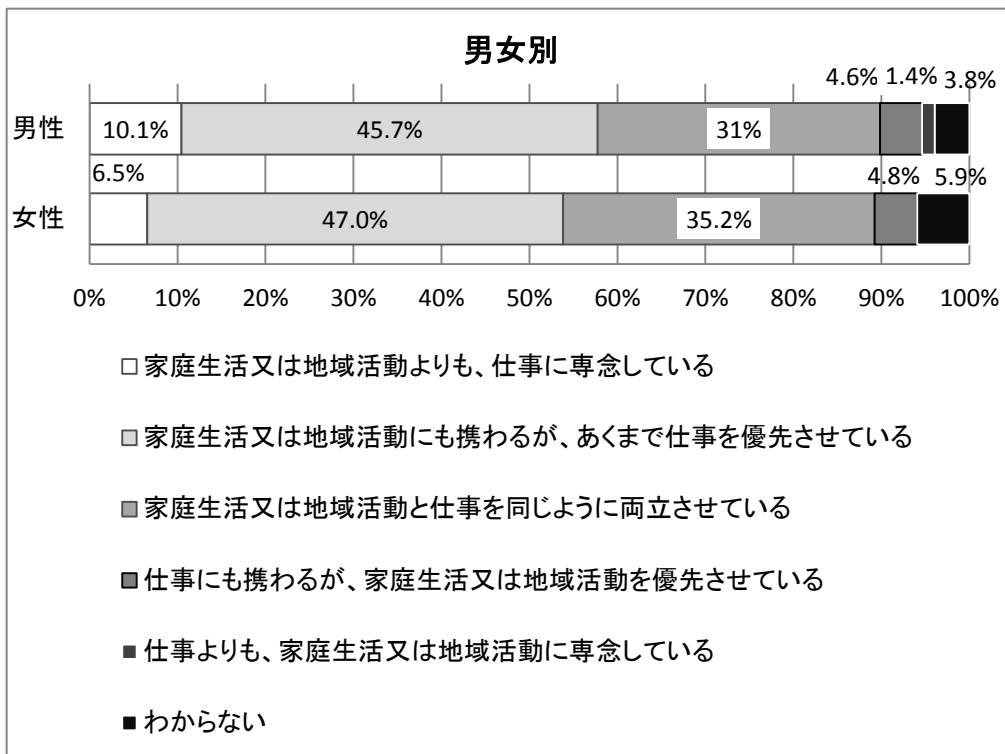
N = 758



**《男女別》**

男女別にみると、女性の「両立派」が35.2%となり、男性の「両立派」よりも高くなった。また、男女ともに「仕事優先派」の割合が過半数を越えている。

N=男性 402      女性 353      不詳 3





## 育児・介護の担い手

問5 育児・介護についてお聞きします。

(5-1) あなたの家庭では、育児を主に誰がしていますか。あなた御自身の現状について

1つ選び、番号に○をつけてください。

(5-2) あなたの家庭では、御自身の親（実父母・義父母）の介護を主に誰がしていますか。

あなた御自身の現状について1つ選び、番号に○をつけてください。

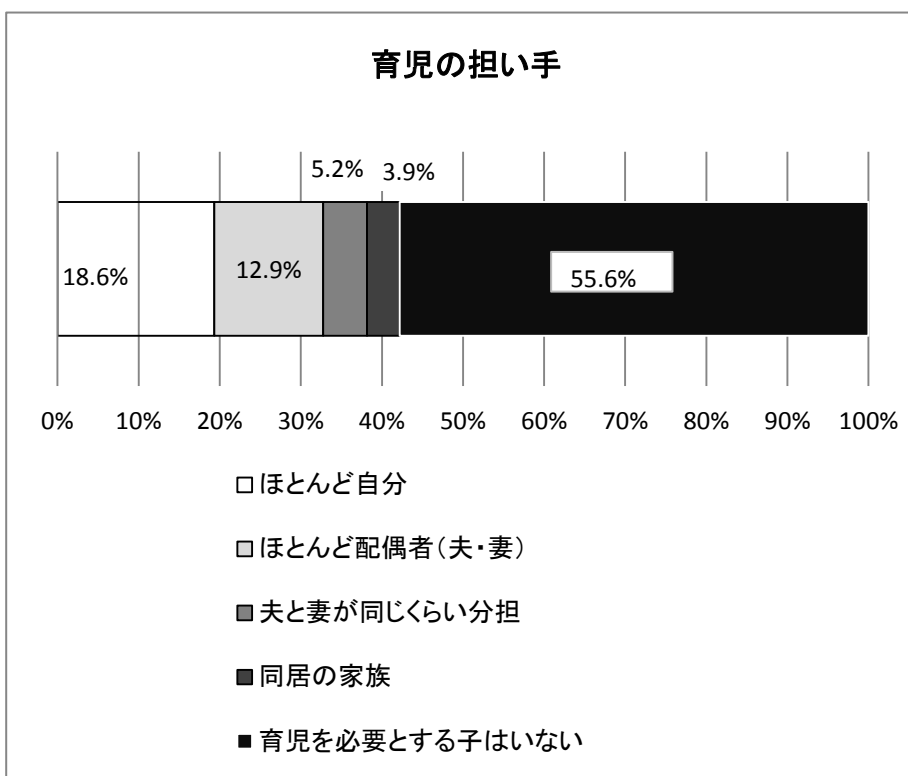
(5-1) あなたの家庭では、育児を主に誰がしていますか。あなた御自身の現状について

1つ選び、番号に○をつけてください。

問5については、今回の調査から加わった項目である。

育児の担い手については、「ほとんど自分」という回答が18.6%、「ほとんど配偶者」が12.9%となり、「夫と妻が同じくらい分担」が5.2%となった。5つの選択肢のうち、「同居の家族」「育児を必要とする子はいない」を除くと、「夫と妻が同じくらい分担」の割合は、約14%となった。

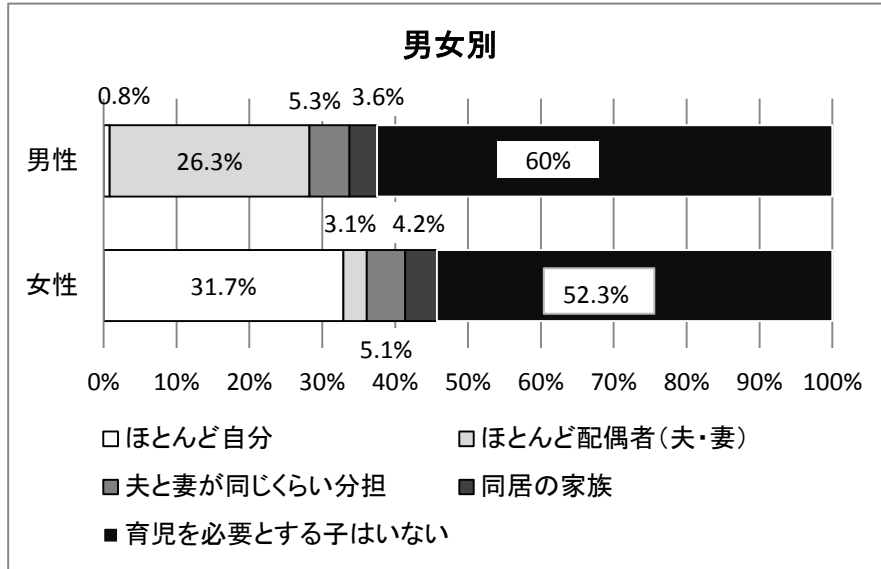
N= 1079



## 《男女別》

男女別にみると、男性の場合、「ほとんど自分」の割合が0.8%に対して、「ほとんど配偶者」は26.3%となった。一方、女性の場合は、「ほとんど自分」が31.7%、「ほとんど配偶者」が3.1%となり、育児については、女性が担うことが多いことが明らかになった。

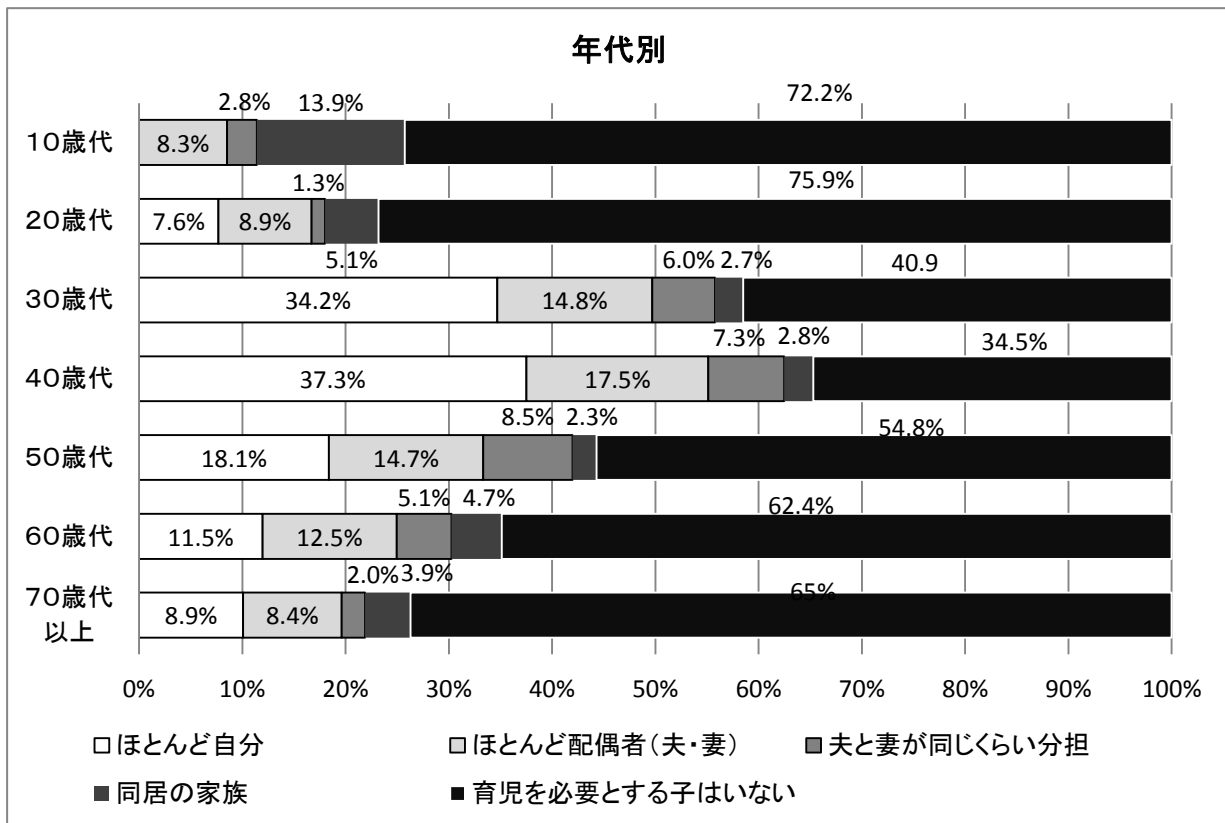
N=男性 453 女性 620 不詳 6



## 《年代別》

年代別にみると、子育て世代の30歳代、40歳代に顕著に表れている。

N=10歳代 36 20歳代 78 30歳代 147 40歳代 176  
50歳代 174 60歳代 284 70歳代 179 不詳 5

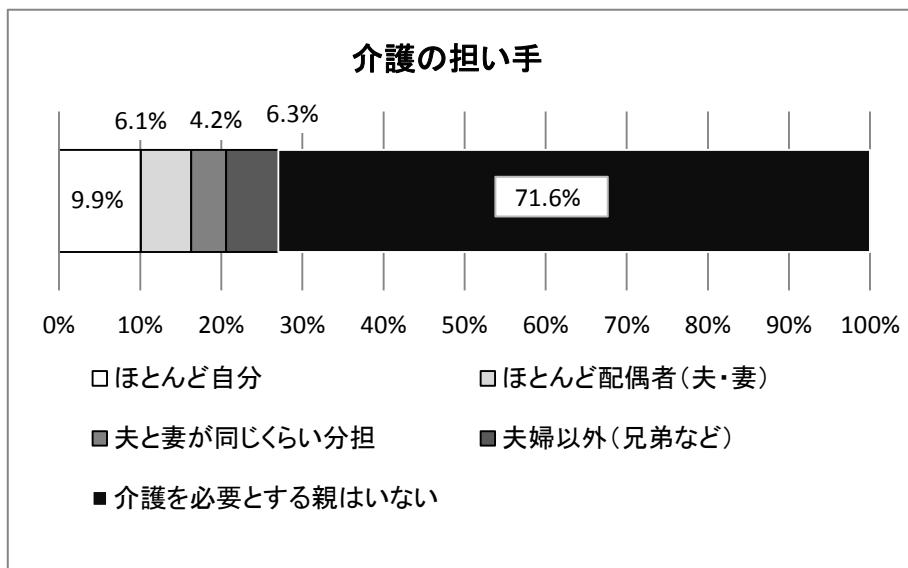


**(5-2) あなたの家庭では、御自身の親（実父母・義父母）の介護を主に誰がしていますか。あなた御自身の現状について1つ選び、番号に○をつけてください。**

介護の担い手については、「ほとんど自分」という回答が9.9%、「ほとんど配偶者」が6.1%となり、「夫と妻が同じくらい分担」が4.2%となった。5つの選択肢のうち、「夫婦以外」「介護を必要とする親はいない」を除くと、「夫と妻が同じくらい分担」の割合は、約20%となった。

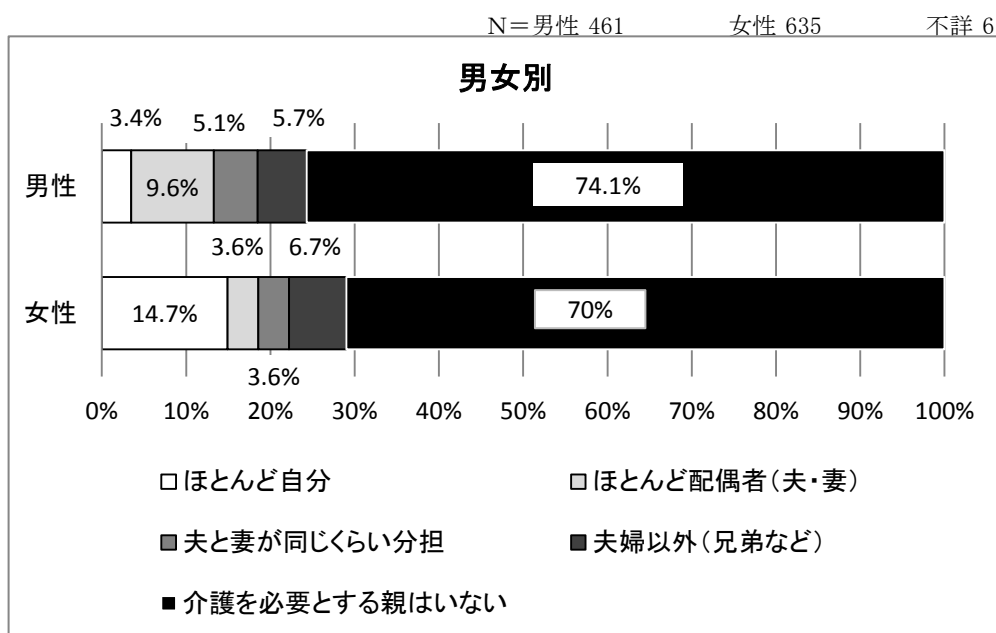
問5-1の育児の場合と比べると、介護の方が「夫婦が同じくらい分担」する割合が多かった。

N= 1102



### 《男女別》

男女別にみると、男性の場合、「ほとんど自分」の割合が3.4%に対して、「ほとんど配偶者」は9.6%となった。一方、女性の場合は、「ほとんど自分」が14.7%、「ほとんど配偶者」が3.6%となり、介護の場合も、女性が担う場合が多いことが分かった。一方で、5つの選択肢のうち「夫婦以外」「介護を必要とする親はいない」を除くと、男性の「ほとんど自分」の割合は、18.8%となり、問5-1の育児の場合と比べると、男性が担う割合が高いことが分かった。

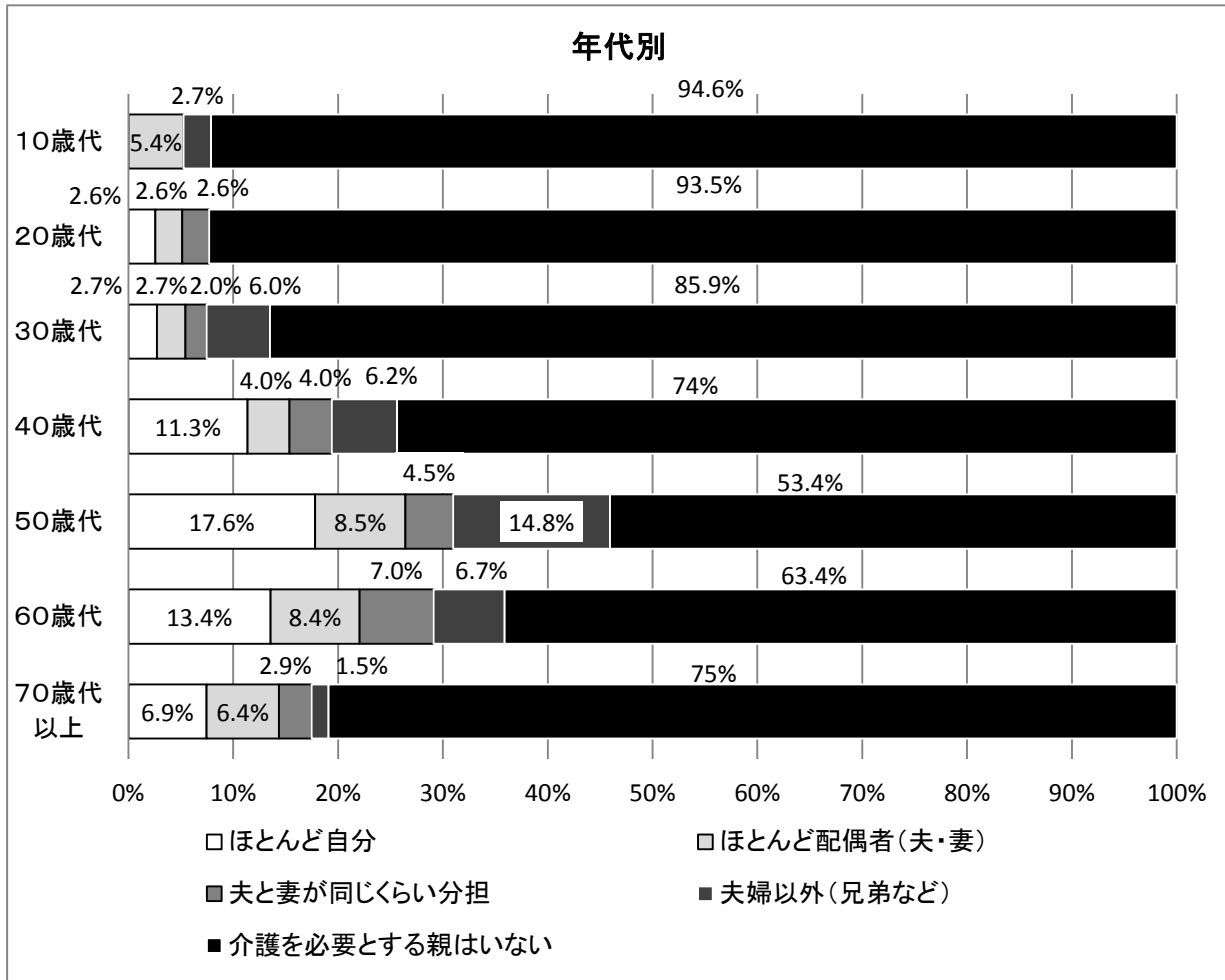




## 《年代別》

年代別にみると、「夫と妻が同じくらい分担」が最も高い年代は60歳代であった。  
また、50歳代では、「夫婦以外(兄弟など)」が一番高く、14.8%となった。

N=10歳代 38      20歳代 78      30歳代 148      40歳代 176  
50歳代 174      60歳代 295      70歳代 188      不詳 5

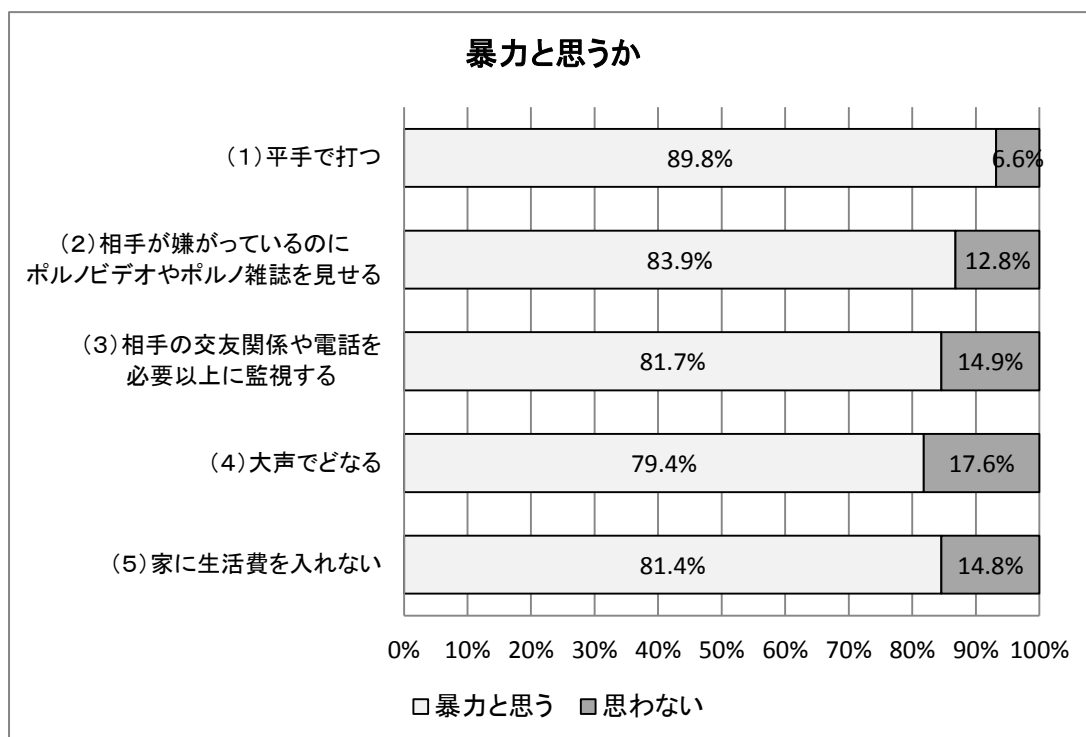


## 人権

問6 あなたは、次の(1)～(5)の各項目のようなことが親しい間柄の異性間(配偶者・恋人・事実婚を含む)であった場合において、それを暴力だと思えますか。(1)～(5)の項目についてそれぞれ、1～2のうちどちらか**1つ**を選び、番号に○をつけてください。

すべての項目で、「暴力と思う」が「暴力と思わない」を大きく上回っている。「暴力と思う」が最も多かったのは、「平手で打つ」で89.8%となった。一方、「暴力と思わない」が最も多かったのは、「大声でどなる」で17.6%となった。前回調査と比べると、「大声でどなる」を「暴力と思う」とした割合が、1.9ポイント高くなっている。

N=(1)1103、(2)1107、(3)1107、(4)1111、(5)1102



## 《男女別》

男女別にみると、全体的にほぼ同じ傾向が見られるが、「大声でどなる」「家に生活費を入れない」を「暴力と思う」割合が6.8ポイントの差があり、女性の割合の方が高い。

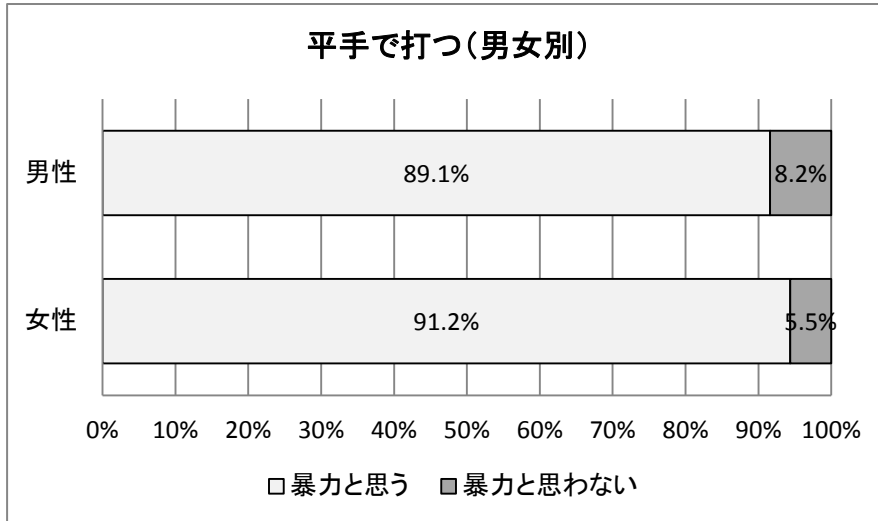
「大声でどなる」を「暴力と思わない」とする意見が男性は21.8%、女性は14.9%とほかの項目と比べると高くなった。

### (1) 平手で打つ

N=男性 464

女性 637

不詳 2

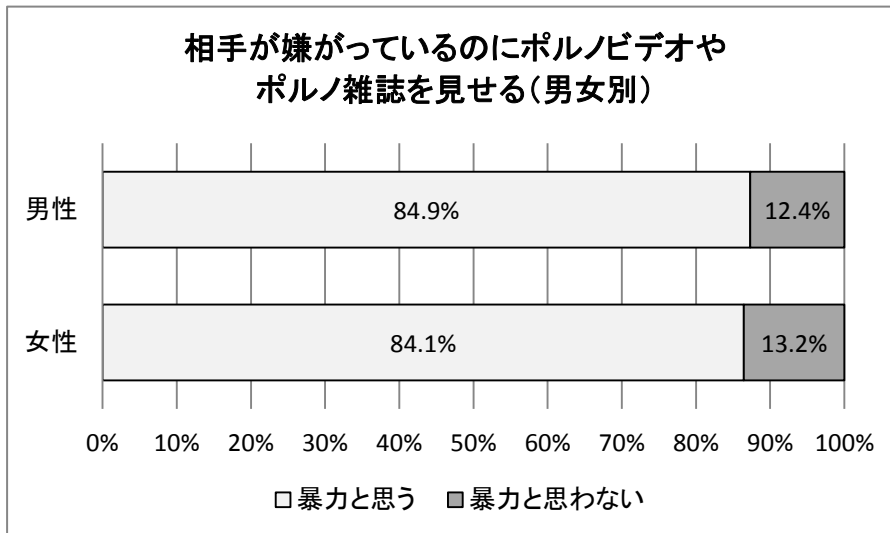


### (2) 相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見

N=男性 464

女性 641

不詳 2

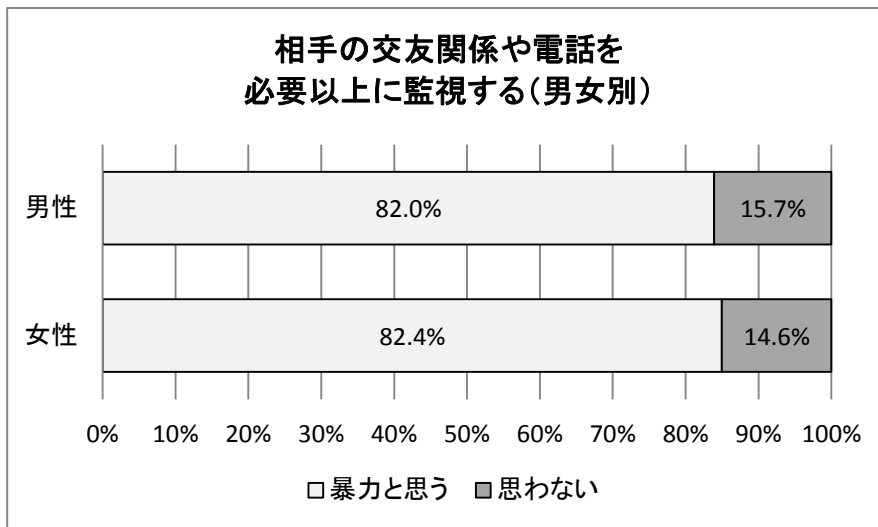


(3)相手の交友関係や電話を必要以上に監視する

N=男性 466

女性 639

不詳 2

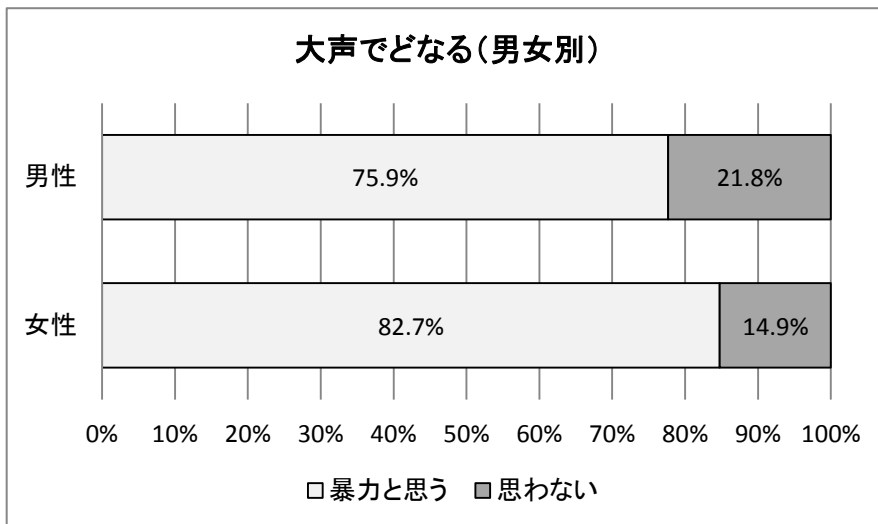


(4)大声でどなる

N=男性 466

女性 643

不詳 2

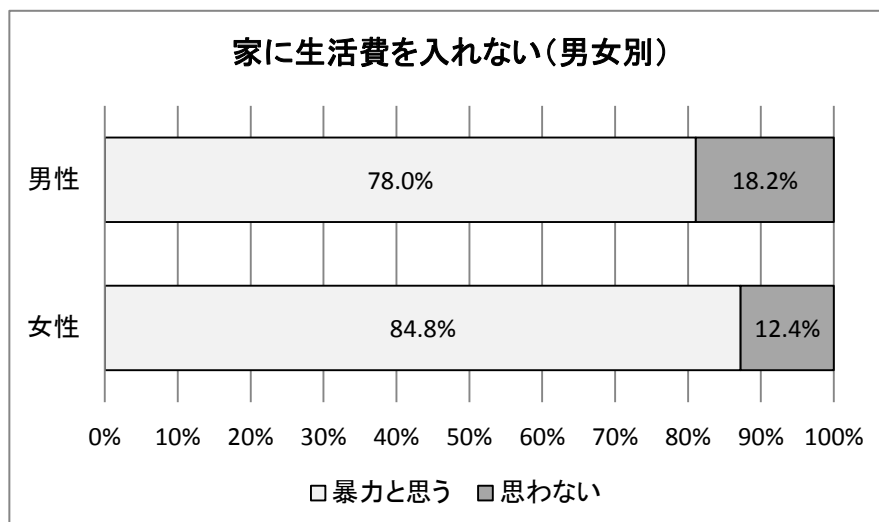


(5)家に生活費を入れない

N=男性 459

女性 641

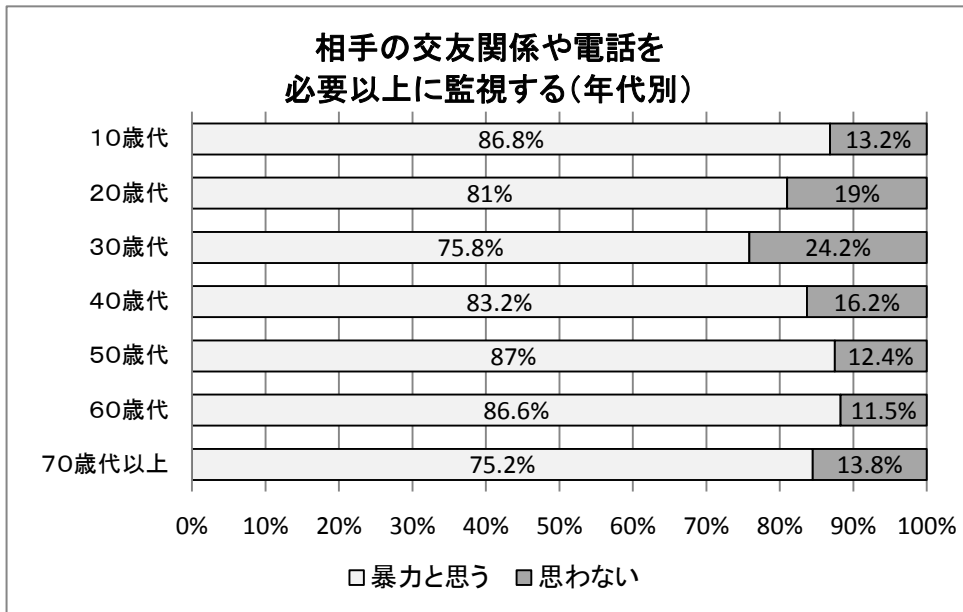
不詳 2





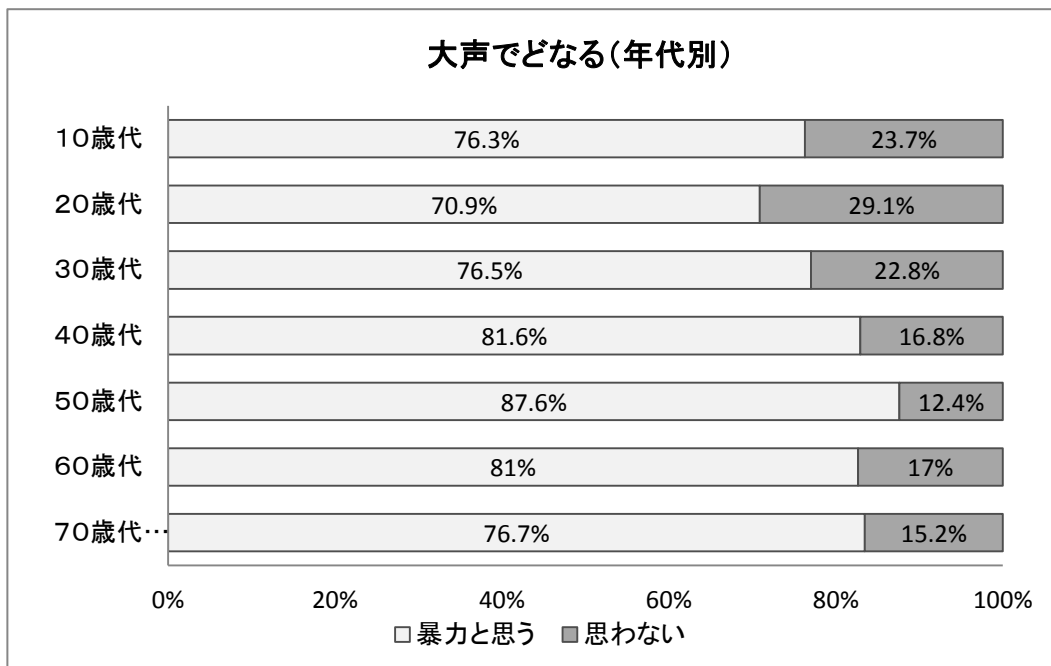
(3) 相手の交友関係や電話を必要以上に監視する

N=10歳代 38      20歳代 79      30歳代 149      40歳代 178  
 50歳代 176      60歳代 299      70歳代 187      不詳 1



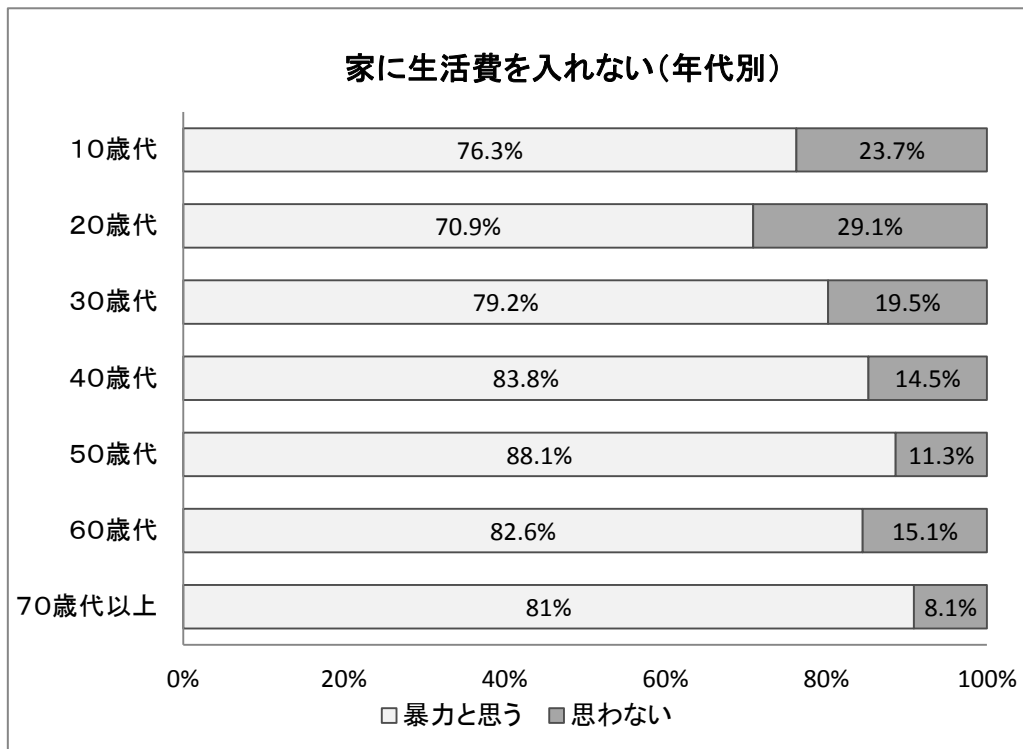
(4) 大声でどなる

N=10歳代 38      20歳代 79      30歳代 148      40歳代 176  
 50歳代 177      60歳代 299      70歳代 193      不詳 1



(5) 家に生活費を入れない

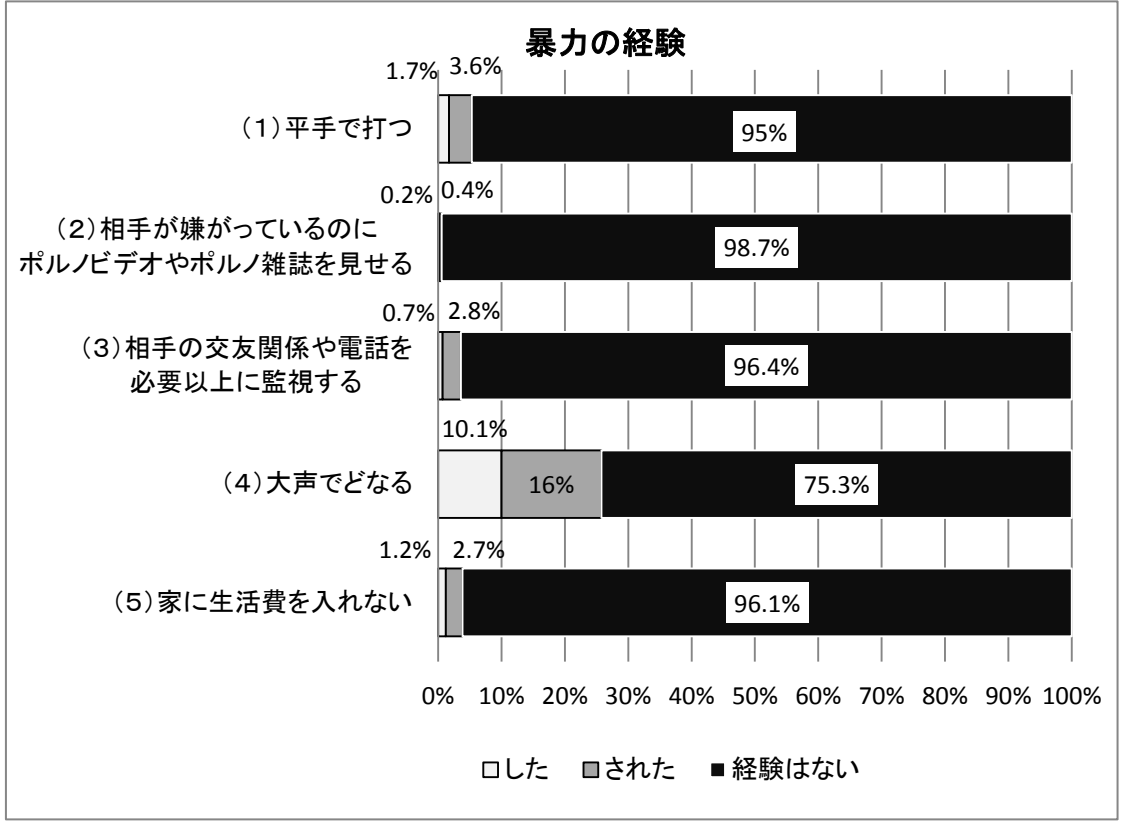
N=10歳代 38      20歳代 79      30歳代 147      40歳代 176  
50歳代 176      60歳代 298      70歳代 187      不詳 1



問7 あなたは、次の(1)～(5)の各項目のようなことについて、親しい間柄の異性間で「した」または「された」経験がありますか。(1)～(5)の項目についてそれぞれ、1～3のうちあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。  
 ※(M. A.)

暴力的な経験について、「大声でどなる」を「した」割合は10.1%となり、最も高くなった。また、「された」割合についても、最も高く16%となった。  
 前回調査と比べると、「大声でどなる」を「した」割合は、3.8ポイント低くなった。

N=(1)1096、(2)1090、(3)1090、(4)1093、(5)1085



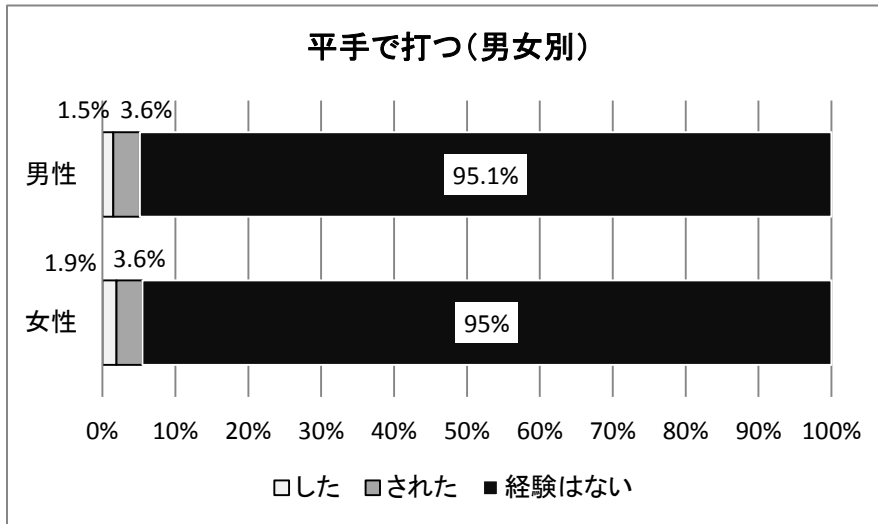


## 《男女別》

男女別にみると、男性の方が比較的加害者としての経験が多い傾向が見られる。  
 前回調査で男女差が見られた「大声でどなる」については、「した」男性は16.2ポイント低くなった。  
 一方で、「した」女性は5.4ポイント高くなり、男女の差があまり見られなくなった。

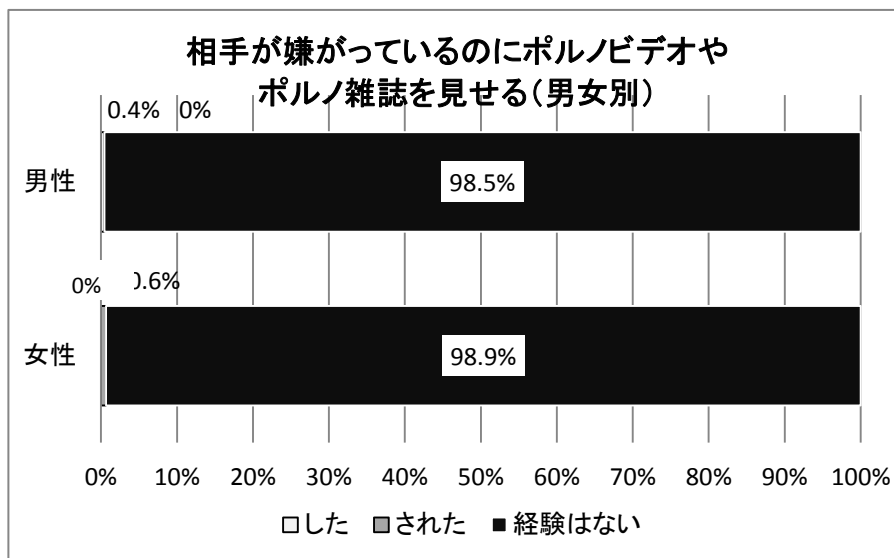
### (1) 平手で打つ

N=男性 468 女性 617 不詳 4



### (2) 相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

N=男性 471 女性 619 不詳 4

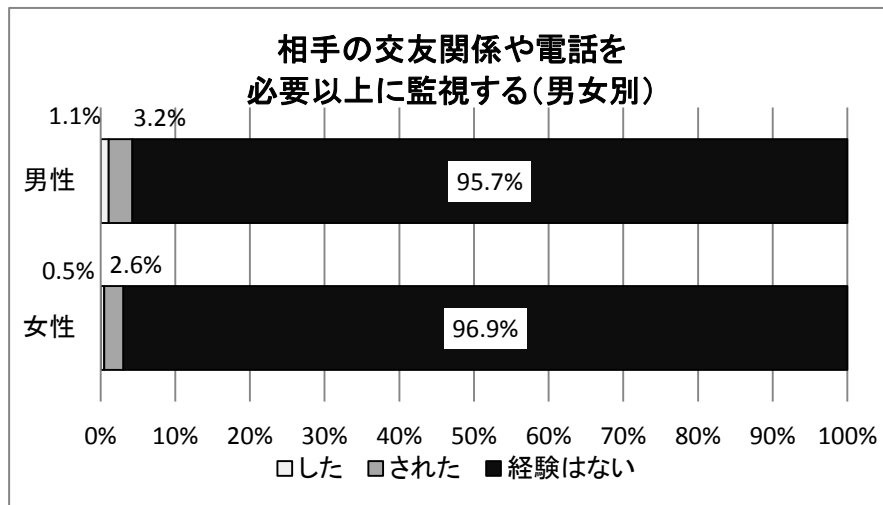


(3) 相手の交友関係や電話を必要以上に監視する

N=男性 468

女性 618

不詳 4

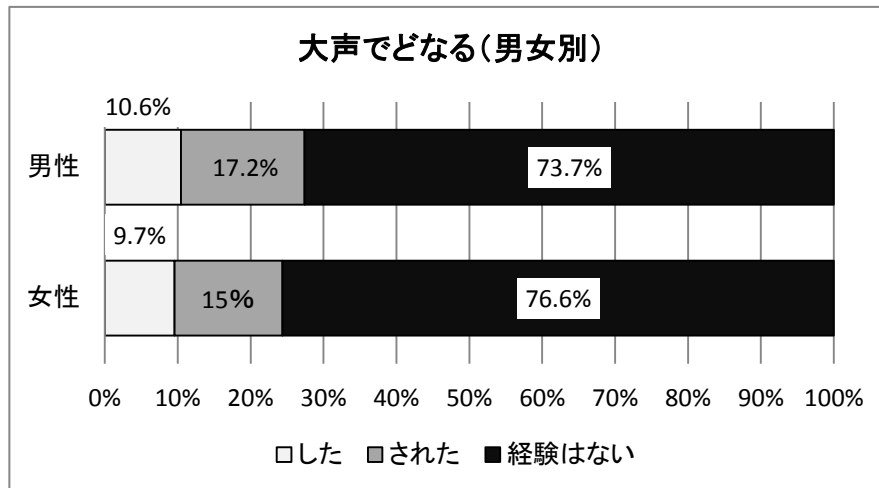


(4) 大声でどなる

N=男性 471

女性 620

不詳 4

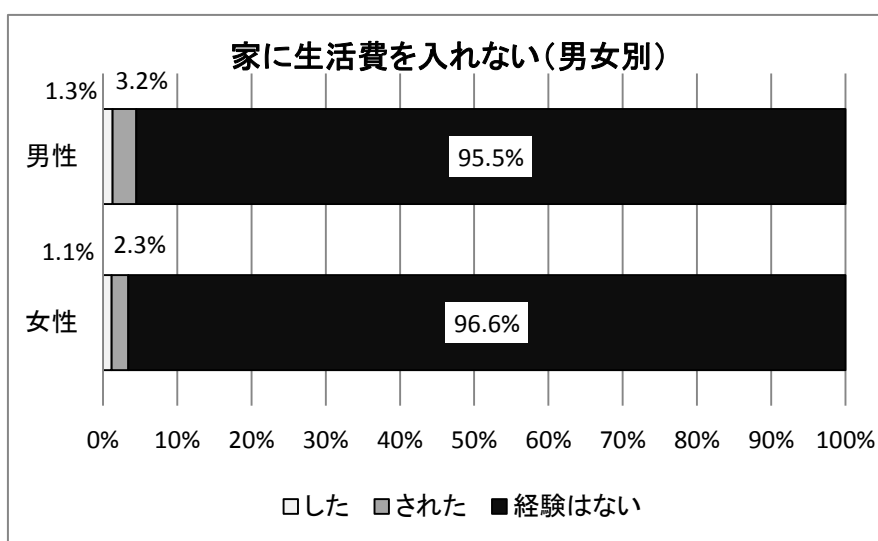


(5) 家に生活費を入れない

N=男性 470

女性 614

不詳 4

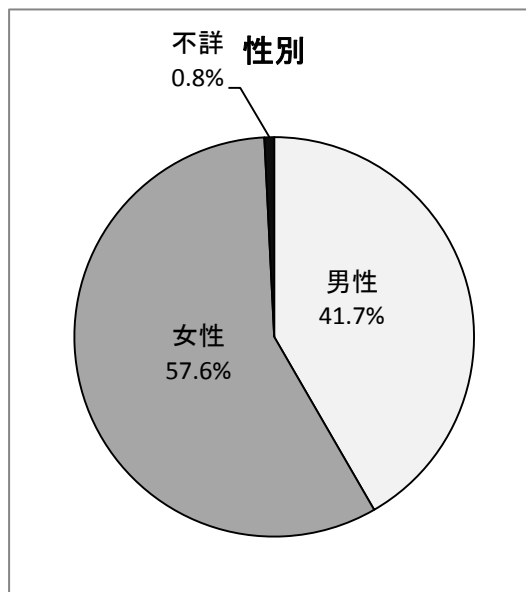


## 回答者の属性

### 問8 性別

回答者の性別は女性の方が多く、全体の57.6%を占める。

	人数	割合
男性	477	41.7%
女性	659	57.6%
不詳	9	0.8%
計	1145	100.1%

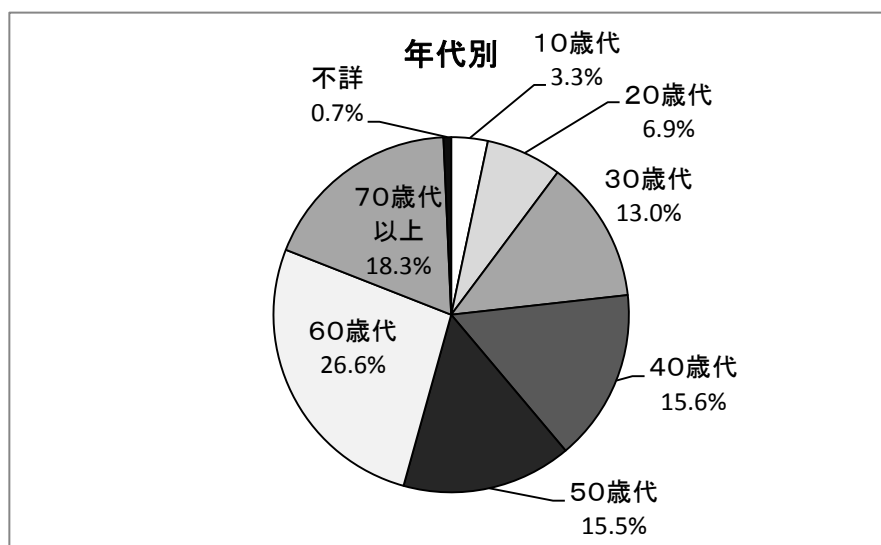


### 問9 年齢

回答者の年代は60歳代が最も多く、26.6%を占める。次いで、「70歳代」18.3%、「40歳代」15.6%の順になっている。

50歳代以上で全体の半数以上を占めている。

年代	人数(人)	割合
10歳代	38	3.3%
20歳代	79	6.9%
30歳代	149	13.0%
40歳代	179	15.6%
50歳代	177	15.5%
60歳代	305	26.6%
70歳代以上	210	18.3%
不詳	8	0.7%
計	1145	100%

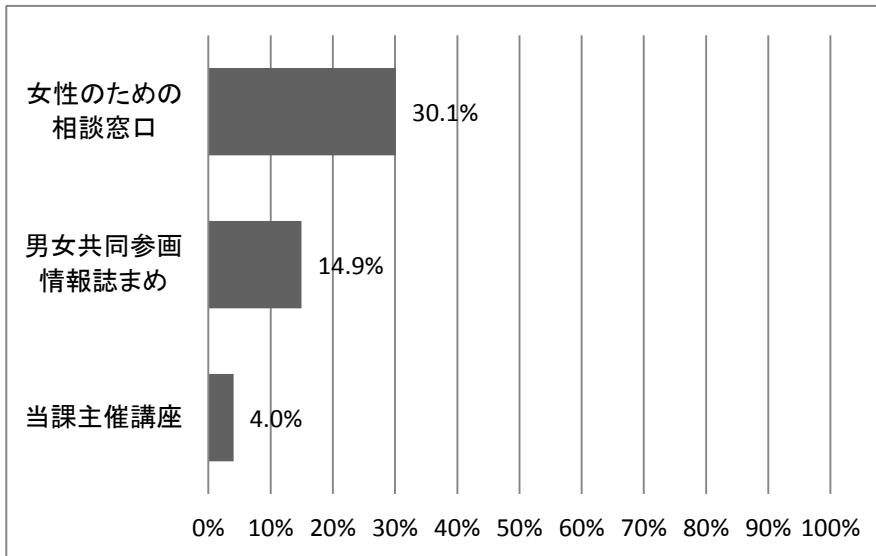


問10 平塚市が実施する次の1～3の男女共同参画推進事業のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、**すべて**選び、番号に○をつけてください。  
(M.A.)

平塚市が実施する男女共同参画推進事業の認知度は、「女性のための相談窓口」が30.1%と最も高くなった。

なお、無回答は695人、「すべて知らない」は20人であったため、有効回収数(1145人)で除すると62.4%が「すべて知らない」または無回答となる。

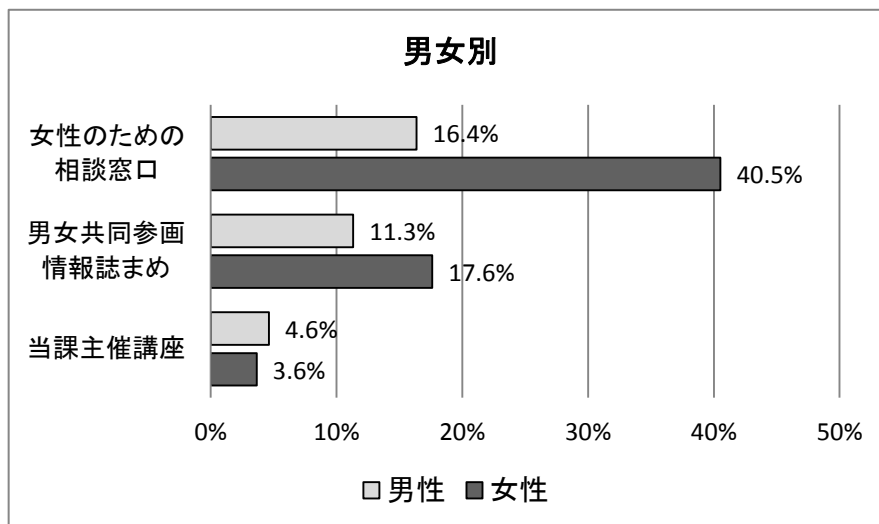
N = 1145



《男女別》

男女別に見ると、「女性のための相談窓口」は男性より女性の方に知られている結果となった。

N = 男性 477 女性 659 不詳 8



## 《年代別》

N=10歳代 38  
50歳代 177

20歳代 79  
60歳代 305

30歳代 149  
70歳代 210

40歳代 179

